

2023 年度 第 3 回 10 月九大本番レベル模試 地理 採点基準

■ 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは 0 点。

■ 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

■ 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは 1 点減点。
- ② 下線の付け忘れは 1 問につき 1 点減点。
- ③ 指定語句不使用は，指定語句 1 つにつき 1 点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは 1 点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇄スロベニア，パキスタン⇄パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は 0 点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

■ 採点記号について

1. <□□□□> 加点ポイント
2. □□□□× 事実に誤認あり
3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

■ 設問別加点基準

- 1) _____ 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。

[1]

問 2 26 点

※ [指定語句] 研究開発 生産の委託 中間財 労働集約的 4 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

電機・電子産業のうち、家電組み立てなどの労働集約的な分野は、安価な労働力を用いて輸出指向型工業化を進めた中国や東南アジアに集積する。かつて家電の世界的生産国だった日本では、研究開発や試作などの部門を国内に残し、量産品の製造拠点はアジア諸国に移した。電子機器メーカーでも、収益性の高い開発や販売などに特化して生産部門を切り離すファブレス化が進み、中国や東南アジアでは海外のファブレス企業から生産の委託を受ける EMS が成長した。このように、電機・電子産業では、設計から部品・製品までの工程内で最適立地を図る国際分業が進み、アジア諸国は部品や半製品などの中間財を互いに供給し合って貿易額を増加させている。

【加点ポイント】

i) 家電 (量産品) などの生産体制について (12 点)

(※「家電・量産品」に限定せず「電機・電子産業」の特徴としての解答でも加点する)

①<2 点> 【生産の特徴】

○労働集約的である／多くの人手を要する

②<4 点 (2 点×2)> 【日本の生産体制の変化】

○ (かつては) 日本が家電の世界的生産国だった／家電の生産 (電機産業) の中心は日本であった
／量産品も日本で製造していた →2 点

○ (近年は) 研究開発 (や試作など) の部門だけを日本国内に残した →2 点

③<2 点> 【近年の生産体制】

○量産品は中国 (や東南アジア) が生産の中心となった

／日本企業 (先進国) が量産品の製造拠点を海外 (アジア諸国) に移した

④<4 点 (2 点×2)> 【③の背景】

○ (中国や東南アジア諸国が) 輸出指向型工業化を進めた／輸出加工区や経済特区を設置した
／外資を導入／外国企業の誘致 →2 点

(※△「中国や東南アジア諸国の工業化が進んだ」のみ →1 点)

○安価な労働力／人件費が安い／生産コストが安い →2 点

(次ページに続く)

ii) 電子機器（半導体／先端技術分野）などの生産体制について（6 点）

（※「電子機器」に限定せず「電機・電子産業」の特徴としての解答でも加点する）

⑤<6 点（3 点×2）> 【近年の生産体制の特徴】

○ファブレス化が進んだ／工場を持たずに生産の委託をする企業が増えた
／研究開発（設計や販売）に特化し製造を行わない企業が増えた →3 点

○企業から生産の委託を受けて製造する企業が増えた
／企画や設計を行わず生産の委託だけをを請け負う企業が増えた
／生産の委託を受けて製造する EMS（ファウンドリ／OEM など）が増えた →3 点

iii) 貿易額の増大について（8 点）

⑥<8 点（4 点×2）> 【貿易額増大の要因】

○国際分業が進んだ／製造工程内で国境を越えた最適立地が図られた →4 点

○中間財（部品／半製品）を供給し合うことで貿易額が増加する
／中間財（部品／半製品）の輸出入が増えた →4 点

問 3 18 点

※ 【指定語句】 サプライチェーン 自然災害 人権 3 つ全て使用（※下線不要）

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

サプライチェーンがアジアの新興国や発展途上国に分散すると、多国籍企業はその末端まで管理できず、下請けの製造工程における劣悪な労働環境や搾取などの人権侵害を招くといった倫理的課題が生じている。さらに、産業活動による環境破壊や、恣意的な工場撤退による地域経済への悪影響なども懸念され、対応が求められる。自然災害や政変などで進出先での生産や流通が停滞し、サプライチェーンが寸断される事態も想定が必要である。

【加点ポイント】

①<6 点（3 点×2）> 【多国籍企業でのサプライチェーンの特徴】

○サプライチェーンが多くの国に分散する
／原料や部品の調達先が多くの国に分散する →3 点

○末端の下請け（製造や原料調達）の管理が難しい →3 点

②<6 点（3 点×2）> 【①の自然災害に関する課題】

○自然災害で生産が停滞する／自然災害で工場が被害を受ける →3 点

○自然災害により流通が停滞する／自然災害により原料や部品／製品が輸送できなくなる →3 点

③<3 点（1 点+2 点）> 【人権に関するの課題とその例】

○人権侵害が起こる／人権問題が起こらないよう配慮すべきである →1 点

○（例として）劣悪な労働環境／賃金の搾取／児童労働／労働災害 →2 点

④<3 点> 【その他の課題】

○環境破壊／撤退による地域経済への悪影響／政変（テロ）による停滞
○多国籍企業（や消費者）の倫理観が問われる } いずれかで 3 点

[2]

問 2 14 点

※ 【指定語句】 シオニズム運動 難民 迫害 3 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

ローマ時代に離散し、世界に拡散していたユダヤ人は、ヨーロッパでの深刻な迫害を背景に、故郷パレスチナに民族国家建設を目指すシオニズム運動をおこし、第二次世界大戦後に米・英の支援を受けてイスラエルを建国した。その際、長くパレスチナに暮らしてきたアラブ人が土地を奪われて難民となったため、周辺のアラブ諸国が強く建国に反発した。

【加ポイント】(※問 1 の可否は問わない)

①<2 点> 【イスラエルの対立相手】

○アラブ諸国／アラブ人

②<4 点 (2 点+1 点+1 点)> 【対立の契機】

○ユダヤ人が →2 点

○パレスチナに →1 点

○イスラエルを建国した →1 点

③<4 点 (2 点×2)> 【②の背景】

○ユダヤ人は迫害を受けていた →2 点

○シオニズム運動が起こった／ユダヤ人が故郷の地に国家建設を目指した →2 点

④<2 点> 【②の結果／対立の背景】

○アラブ人 (パレスチナ人) が難民となった／アラブ人 (パレスチナ人) が追放された
／アラブ人 (パレスチナ人) が土地を奪われた

⑤<2 点> 【その他】

○ユダヤ人が離散したのはローマ時代である (ローマ帝国の統治による)

○イスラエルの建国は第二次世界大戦後 (1948 年) である

○イスラエル建国にはイギリス (やアメリカ合衆国) の支援があった

} いずれかで 2 点

問 3 11 点

※ 【指定語句】 外来河川 国境 資源 同化政策 4 つ全て使用 (※下線不要)

☆☆ 指定語句不使用は、指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし、解答中のどこかで使用していれば減点しない。

居住地域が複数の国の国境で分割されたクルド人は、それぞれの国で少数民族となり、同化政策の対象とされた。それに反発し、各国で独立運動を起こすが、彼らの居住地域は周辺地域へ流れる外来河川の水源地であり、石油資源も豊富なため、運動は弾圧されてきた。

【加点ポイント】 (※問 1 の可否は問わない)

①<4 点 (2 点×2)> 【C の民族 (クルド人) の分布と問題点】

- 居住地域が複数の国の国境で分割されている / (複数の) 国境をまたいで居住する / 分布地域の中を国境が通る →2 点
- それぞれの国で同化政策の対象となる / それぞれの国の同化政策に反発している / 同化政策により民族固有の文化 (アイデンティティ) が維持できない →2 点

②<3 点 (2 点+1 点)> 【C の民族 (クルド人) の民族運動】

- 独立運動を起こしている / 独立を求めている →2 点
- 独立は認められていない / 独立運動は弾圧されている →1 点

③<4 点 (2 点×2)> 【独立が認められない要因】

- (C の民族の) 居住地域が外来河川の水源地である →2 点
- (C の民族の) 居住地域付近には石油資源が存在する →2 点

問 4 17 点

人口性比が高い国では人口が急増しており、一人当たり G N I が高い。これらは豊富なオイルマネーによる都市建設事業が盛んな産油国であり、南アジア等から多くの建設労働者が移住したため男性の人口が増大した。一方、人口性比が低い国は人口が減少傾向で、一人当たり G N I はやや低い。これらは旧ソ連構成国であり、体制転換に伴う経済の低迷で出生率が低下した。人口の高齢化により平均寿命の長い女性人口が男性を大きく上回る。

【加点ポイント】

i) 人口性比が高い国について (9 点)

①<2 点 (1 点×2)> 【人口性比が高い国の特徴】

- 人口が急増している / 人口増加率が高い →1 点
(×人口が多い)
- 一人当たり G N I が高い (多い) →1 点

②<3 点> 【①の背景】

- 産油国である / 石油資源が豊富 / オイルマネーによる →3 点

③<4 点 (2 点×2)> 【人口性比が高い理由】

- 男性の労働者が移住した →2 点
- (男性の就業先) 建設業 / 都市建設のため / ビル建設 / リゾート開発 →2 点

(次ページに続く)

ii) 人口性比が低い国について (8 点)

④<2 点 (1 点×2) > 【人口性比が低い国の特徴】

○人口が減少している →1 点

(×人口が少ない)

○一人当たり G N I が (やや) 低い (少ない) →1 点

⑤<4 点 (2 点×2) > 【④の背景】

○出生率が低い／少子化が進む →2 点

○体制転換 (計画経済から市場経済／社会主義から資本主義) に伴う経済の低迷 →2 点

③<2 点> 【人口性比が低い理由】

○平均寿命の長い女性人口が男性人口を上回る

／他国へ出稼ぎに行く男性が多い